

2021 年度低炭素社会実行計画の評価・検証(2020 年度実績)について

「ハンバーグ業界の 2021 年度低炭素社会実行計画の評価・検証(2020 年度実績)について」

国が計画する「地球温暖化対策計画」において、産業界として対策の中心的役割を果たす「低炭素社会実行計画」については、政府において関係審議会等による定期的に評価・検証を行うこととされています。一般社団法人日本ハンバーグ・ハンバーガー協会は、2007 年度に「ハンバーグ・ハンバーガー業界の環境自主行動計画」を策定し、その実施状況等については、毎年調査を行い公表することとしています。このうち、ハム・ソーセージ業界及びハンバーガー業界については、それぞれの業界の「外食業界の環境自主行動計画」との重複を避け、2008 年度からは「ハンバーグ業界の環境自主行動計画」として実施し、公表しています。

この度、2021 年度(2020 年度実績)の取りまとめを行いましたので報告いたします。

※「環境自主行動計画(低炭素社会実行計画)フォローアップ調査」→2016 年度から「低炭素社会実行計画 評価・検証(〇〇〇〇年度実績)について」に表記変更。

1. 低炭素社会実行計画における目標

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」等を遵守するとともに、ハンバーグ類生産工場においてエネルギー消費量の削減及びエネルギーの効率的利用に取組み、2013 年度を基準年度とし、エネルギー消費原単位を 2020 年度までに▲5%改善、2030 年度まで年平均▲1%改善する。

※2014 年までの報告は、2020 年度までの目標指標を「CO₂ 排出原単位」としていたが、2015 年報告分より 2020 年度までの目標指標を「エネルギー消費原単位」へと変更している。

2. 目標水準達成のための取組み (企業からの報告より)

温暖化対策(二酸化炭素排出抑制対策)

【2020年度の取組実績】

- ・ 高効率蒸気ボイラーに1台更新
- ・ 殺菌装置の壁修繕
- ・ CO₂ フリー電気 100%に切り替え
- ・ 蛍光灯の LED 化
- ・ 排水処理調整槽の浮上油回収、遠心分離により燃焼に適した状態に精製し、廃油ボイラーにて再利用(年間 CO₂ 排出削減量 1,084t-CO₂/年)
- ・ 空調設備の更新による省エネルギー化(高効率化)
- ・ 社用車減台による CO₂ 排出削減

【2021年度以降の取組み予定】

(今後の対策の実施見通しと想定される不確定要素、企業の取組予定)

- ・ 製品冷却用冷凍機インバーター化
- ・ 高効率蒸気ボイラー3台更新

- ・ 蒸気ドレン熱回収
- ・ コンプレッサーインバーター化
- ・ フライヤー熱交換器更新
- ・ フライヤー2槽を1槽に更新
- ・ スチームトラップの不良箇所改善
- ・ 冷凍・冷蔵庫、冷凍機更新
- ・ 空調・冷凍設備機器更新
- ・ 電気トランス高効率化更新
- ・ SDGs の継続取組み
- ・ FSSC22000 の取得認定。(フードロス削減)
- ・ ロングライフチルド商品の拡充。新規機械導入

3. エネルギー消費量・CO₂排出量の実績

年度 区分	2013 基準年度	2016	2017	2018	2019	2020
①ハンバーグ類生産量 (t)	119,290	117,509	113,226	113,108	109,260	111,168
②エネルギー消費量 (原油換算 kL)	49,430	50,374	49,820	49,741	49,417	50,474
エネルギー消費原単位 kL/t	0.414	0.429	0.440	0.440	0.452	0.454
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂) (注1)	109,895	105,419	101,860	97,876	94,224	95,774
CO ₂ 排出原単位 (t-CO ₂ /t) (注2)	<u>0.921</u>	<u>0.897</u>	<u>0.900</u>	<u>0.865</u>	<u>0.862</u>	<u>0.862</u>

- (注) 1.計画対象企業は、既に他団体・組合の計画に参加している会員企業を除く会員企業とした。
2.電力に係るクレジット調整導入のため、CO₂排出量および CO₂排出原単位は、クレジット調整後の数値とした。

4. 2020年度実績概要

【目標に対する実績】

年度	目標指標	基準年度	目標水準 ①	2020年度実績 (基準年度比) ②	2020年度実績 (目標水準比) ③ / ①	2020年度実績 (2019年度比)
2020	エネルギー消費原単位	2013	0.394 kL/t	+9.6%	+15.2%	+0.4%
2030	エネルギー消費原単位	2013	年平均 ▲1%	年平均 +1.4%	—	空欄

① 2020年度目標水準と実績との比較及び評価

2013年度を基準として、エネルギー消費原単位を2020年度までに▲5%改善することを目標としていた。2014年以降、省エネ施設の導入、製造工程の改善、効率化等エネルギー消費量節減対策は、継続的に推進されているが、製品の多様化等により、生産に係るエネルギー消費量の削減は難しくなっている。また、生産量の減少に対し、原単位は増加傾向にある。2020年度のエネルギー消費原単位は、基準年度比+9.6%、目標水準比+15%となった。

② 2030年度目標水準と2020年実績との比較及び評価、今後の改善見通し等

2013年度を基準として、エネルギー消費原単位を2030年度までに年平均▲1%改善することを目標としているが、①同様、対基準年度比、年平均+1.4%となり、目標達成は難しい現状となっている。

【エネルギー消費量・CO₂排出量実績】

	2020年度実績	基準年度比	2019年度比
エネルギー消費量	50,474k _l	+2%	+2%
CO ₂ 排出量	95,974t-CO ₂	▲13%	+2%

① エネルギー消費量 2019年度からの増加要因

2014年以降、省エネ施設の導入等エネルギー消費量節減対策は、継続的に推進されているが、製品の多様化、品質の安全性重視等により、生産に係るエネルギー消費量の削減は難しく、基準年度に対し微増の2%台で推移している。2020年度の実績は、前年度比+2%と増加しており、これもエネルギー消費量の増加の要因となっている。

② CO₂排出量 2019年度からの増加要因

CO₂排出量については着実に削減され、対基準年度比は▲13%となった。CO₂排出量原単位についても2018年度には、2020年度目標値(対基準年度▲5%)を達成し、2018年度以降のCO₂排出量原単位値は横ばいの状況であるが、CO₂排出量については、2020年度の実績が、前年に対して2%増加しており、CO₂排出量が2019年に対し2%増加している要因となっている。

5. 2021年度の見通し

生産する商品は、年々多様化の傾向にあり、生産性や効率性を求めていくなか、温度管理上、空調設備、冷蔵・冷凍設備などは必要不可欠なものであり、節電に馴染まないものである上、アレルギー対応商品などの生産については、エネルギー効率が悪くなる傾向があるなど限界がある。

このような厳しい状況にはあるが、燃料の転換、施設・設備の更新、変更などCO₂排出量及びエネルギー消費量の削減、エネルギーの効率的利用の推進を一層進めていく。